

文京学院短期大学のキャリア形成支援と就業力向上支援について

林 寛美

(文京学院短期大学 英語科 学科長・教授)

はじめに

本学は、昭和三九年に「英語英文科」のみの短期大学として、東京都文京区本郷に創設された。現在は学科名を「英語科」に改め、四年制大学に併設されている。定員は一年二年男女を合わせて二四〇名である。東京大学に隣接した東京の中心にあつて、地下鉄駅の出入り口がキャンパス内にあるという典型的な都市型の短期大学である。

平成二二年度、本学の「就業力支援の強化と既卒者を含むキャリア支援体制の確立」という取組みが、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(G

P)に採択された。

本稿では、本学が従来から行ってきたキャリア形成支援と就業力向上支援の取組みに、この度の採択によって新たに追加された取組みを加えて、それらの主なものを紹介し、筆者の考えの一端を述べてみたい。是非ご意見をいただきたいと思う。

(一) 卒業後の進路に合わせたコース制

本学は、「英語英文学科」としてスタートしたが、平成一八年四月、学科名を現在の「英語科」に改め、英語ビジ

ネスコース（エアライン志望コース・トラベル志望コース・ホテル志望コース・国際ビジネス志望コース）と英語コミュニケーションコース（留学志望コース・編入学志望コース）の二コース（六志望コース）とした。これにより、産業界の協力を得ながらカリキュラムの抜本的な見直しを行い、英語ビジネスコースにおいては、学生の希望進路に合わせた実践的な授業科目を配置した。具体的には、英語スキルの運用能力を基礎とした上で、志望コース毎の職業専門科目（航空概論、エアラインホスピタリティー、プレゼンテーション論、旅行業概論、観光地理、トラベルホスピタリティー、ホテル概論、ホテル業界研究、国際ビジネス概論、貿易実務、ビジネスマナー等々）を置いた。また、英語コミュニケーションコースにおいても、留学対策講座や編入学対策講座等々を正規の授業科目として置いている。

本学のキャリア形成支援において、体系的なキャリア教育カリキュラムの果たす役割は大きい。キャリア教育の意義や内容については、様々な論議がある。将来の目標が漠然として、現在どのような努力をすればよいのかはつきりしない学生に対して、将来の目標や生き方を考えるきっかけを提供することは、大学でも教育の一つの柱である。したがって、全ての学生が早い時期に授業を通して、自分で

具体的な将来の目標を考え、そのための課題解決に取り組む努力ができるようなカリキュラムが必要であると考え。以前の学生の中には、英語が比較的好きではあるが、卒業後の進路については漠然と考えているという学生が多かったが、カリキュラムを大幅に改革し、コース制を導入している現在では、将来の就職先や進路をはっきりと定めて入学してくる学生が多くなったことと、コースでの専門教育を集中して受けていることにより、キャリア形成支援についてその成果が確実に出ているものといえる。

（二）産学連携インターンシップ・地域連携ジョブサポート ター制度

産学連携によるキャリア形成支援への有効な一つとして、インターンシップがある。本学のインターンシップは、正規の授業科目として一年次に配置し、修了者には二単位を与えている。本学では、インターンシップが学生のキャリア形成支援の中核をなすものであるとの認識から、これを積極的に推進しているのである。カリキュラム上は、選択専門科目として置いているが、年々履修者は増加傾向にあり、現在では全学生の凡そ半数以上がこれに参加している。受け入れ先は、航空会社、ホテル、旅行会社等の一般

特集・就職支援～学生の職業意識の醸成～

企業、NPO団体、区役所等々広範囲に及んでいる。この就業体験により、本学学生は職業意識をより強くし、また実社会で必要な能力を自覚することにも繋がっており、自己の成長に極めて有益であると思われる。

近年、特に海外インターシップへの参加希望は増加しているが、旅行会社等の仲介業者を通さず、多くの受け入れ先を本学が独自で開拓している。また必ず、担当教員が現地へ赴き、事前打ち合わせを行い、引率あるいは、期間中の見回り等を実施している。受け入れ先は、ホテルや空港が多く、たとえば、ホテルでは、フロントや宿泊、管理部門のみならず、ショップ、レストラン、ブライダル、イベント等々多くの仕事を体験している。二〇〇九年度のインターシップ先は、グアム、パラオ、台湾、北京、大連、杭州であり、今年度は加えて、イギリス、ドイツが予定されている。期間は、二、四週間と受け入れ先や場所によって異なるが、いずれの修了者にも、正規科目として二単位を与えている。

二〇〇九年度からは、グアムの現地企業でのインターシップ期間中に、現地大学との提携によって、英語での授業も行い内容も一段と充実したものになっている。この授業は、英会話のみならず、グアムの歴史やチャモロ文化等

にも触れた現地でなければ体験できないものである。インターシップ期間中に行われる三〇時間の授業で、この修了者には、現地大学の修了書が与えられ、本学からもインターシップの二単位に加え、さらに二単位を与えている。

本学英語科の学生にとって、海外インターシップに参加する意義は極めて大きく、特に現地スタッフの中に入り、共に仕事をする事で身につく語学運用力には目を見張るものがある。そこでは、自分が役に立っていることを実感しながら、動作を通して会話を身体全体で学んでいるのである。言葉も文化も異なる現地スタッフとのコミュニケーションが、語学運用力の向上に如何に大きな効果をもたらすものかと実感する。

また、海外インターシップ参加者には、所定の語学資格を取得することにより、本学独自の奨励金（五万円～一〇万円）が支給されることになっており、参加者の九割が受け取っている。

地域連携ジョブサポーター制度とは、地域でボランティア活動をを行っているNPO団体や、本学が併設している生涯学習センターが実施している「生涯学習司養成講座」を卒業した地域住民などの協力を得ておこなわれる本学学生へのキャリア形成支援制度である。

地域には、多くの社会経験や人生経験を持ち合わせている優れた人材が多く、本学にとっても貴重な存在である。

この制度においては、サポーターから一方的に学生がアドバイスを受けるというのではなく、グループディスカッション等を通して、学生の職業観の涵養やキャリア形成の支援と共に就業力向上にも繋げようというものである。

この制度は、以上にとどまらず、コミュニケーションスキル、問題解決力、チームワーク力、そして倫理観や市民としての社会的責任、生涯学習力等にも大きな効果があるものと期待されている。

(三) 文京学院SNSコミュニティ

SNS (Social Networking Service) とは、一人ひとりのコミュニケーションを促進するためのインターネットを利用したサービスである。このSNSには様々なものがあるが、「文京学院SNSコミュニティ」は、本学独自に開発されたもので、本学在学生、卒業生、教職員及び許可された関係者のみが利用できるものである。そのため、宣伝広告、勧誘、キャッチセールス、悪徳商法等、その他の危険を気にすることなく、安心して利用できる。

文京学院SNSコミュニティは、在籍している未内定者や内定取り消しを受けた学生のみならず、就職が決まらず卒業していった者も継続して利用可能である。また授業期間のみならず、休暇中等いつでも利用可能なシステムになっている。その内容は、就職支援に関わる多様な情報提供、ガイダンス、職種別研究会の案内、相互の情報交換、学生キャリアリーダー委員会の活動報告等様々である。

卒業生に対しても様々な面で利用されている。これを通して、就職情報を提供したり、就職指導専門家やキャリアコンサルタントによる相談ができるのみならず、「既卒者用就職情報システム」で、キャリアセンターにある情報やフォローアップ講座の情報等もいつでも閲覧できる。仮に未内定のまま卒業しても、本学とのつながりが継続されているので、孤独感や疎外感を感じることなく就職活動ができる。

本学では、就職情報システムとして、「ジョブハンター」を導入している。これは本来、在学生に向けて、企業情報、求人情報、合同企業説明会情報、学生情報、進路決定情報等を提供するシステムであったが、これを改良し、求人情報に卒業生対象の求人情報が掲載できるようにしたものである。

キャリア形成支援や就業力向上支援、そして就職支援に関しては、インターネットの活用はさらに重要なものとなる。各種ガイダンスやセミナー等の通知は一般に掲示板への掲示によるが、必ずしも徹底されず見逃す学生もいる。必要な情報が必要とする学生に間違いなく、かつ迅速に伝えるには、今やインターネットが最適である。また、学生に関するデータベースを作成し、それを利用することによって個別の対応や、卒業後の対応もより充実したものになる。同窓会とのネットワークにリンクできるようにし、在学生が、卒業生に相談する時やOG・OB訪問を行う時の連絡等に活用できるようにすることも考えられる。

(四) 教員と職業カウンセラーによるキャリア相談の実施

キャリア教育は、持続的な就業力の育成を目指すものとして、カリキュラムの中に適切に位置付けられなければならない。それは豊かな人間形成と人生設計に資するものであり、単に卒業時点の就職を目指すものではない。アウトソーシングに偏ることなく、全教員が参画してそれに当たるべきである。

カリキュラムの中の必修科目として、「初年次セミナー」

を置き、年間を通して専任教員であるグループアドバイザーが一五〇人の学生をグループとし、そこでキャリア相談等も行っている。

前述のように、英語科は二コース制で、それぞれのコースには、それに沿った専門科目が一年次前期より置かれており、専門の教員によるキャリア教育がなされている。

また、短期大学の全専任教員が、FDの一環として、専門の職業カウンセラーによる研修を受け、学生の個別相談を実施している、必要に応じ専門職業カウンセラーとペアになり、キャリア相談や面談を行っている。

おわりに

本学のキャリア形成支援や就業力向上支援の取組みの主なものを紹介してきた。フリーターやニートが問題になり、昨今は加えて厳しい就職状況下にある。できるだけ小さい時から働くことの意義や喜びを伝え、自分のキャリアについて考えるきっかけを与えていくことが必要である。筆者はかつて、英語英文科の1年生に必修科目として置かれていた「キャリアプラン」を長年担当した。この学科に入学してくる学生の多くは「英語は好き」であるが、将来「何

になり、「どう生きるか」を具体的に考えている学生はそう多くはなく、入学後の1コマの授業科目の中では十分なキャリア教育は困難であると実感した。コース制になった今は、受験の段階から将来の目標を意識して入学してくる学生が多く、またそうした学生に対するキャリア教育の成果は確実に上がっている。

インターンシップは、キャリア形成支援や就業力向上支援に繋がるキャリア教育の中核をなすものであり、学生の評価を見ても、その効果は絶大である。また生涯を見すえたキャリアの形成については、大学と地域が連携して若い世代に対して何らかの支援を行うことが必要であろうと考えている。

学生のキャリア形成支援や就業力向上支援には、勿論教職員が一体となって取り組まなくてはならない。本学においても、教員を中心メンバーとするキャリア委員会と、職員が組織するキャリアセンターがある。後者は就職カウンセラー等の資格を持つベテラン職員で構成されており、キャリア教育のあらゆる面で重要な役割を担っている。

本稿では、キャリア形成支援と就業力向上支援について、教員による取組みに焦点を合わせて述べてきた。「ここままでやらなければならないのか」という論議は勿論承知して

いるが、現代の学生資質をも考慮すると、少なくとも、学生が「将来どのような職業に就こうか」「どのような生き方をしたいか」というキャリアデザインを描けるよう支援することは避けて通ることのできない状況である。よりよい支援を如何に実現するか、いま知恵と工夫が求められているのである。そして怠ってはならない重要なことは、我々自身が学生に行った支援に対する具体的な評価制度を確立することであり、そのPDCAを繰り返すことであろう。

なお、平成二三年四月、文京学院短期大学「英語科」は、「英語キャリア科」に学科名を変更する予定である。